

2017年度研究出版助成金受給者名簿

2018年3月31日

公益財団法人 日本証券奨学財団

出版代表者（著者）	研究出版物タイトル	出版形態	助成金額
明治大学 商学部教授 名越洋子	負債と資本の会計学 —新株予約権・複合金融商品・ストック・オプションの検討	単著	100万円
滋賀大学 経済学教授 滋賀大学大学院 経済学研究科 副研究科長 二宮健史郎	金融不安定性のマクロ動学	単著	50万円
神戸大学大学院 法学研究科 特命准教授 行岡睦彦	社債のリストラチャリング —財務危機における社債権者の意思決定に係る法的規律	単著	100万円
3 件			250万円

負債と資本の会計学
—新株予約権・複合金融商品・ストック・オプションの検討

著 作 者

明治大学商学部教授

名 越 洋 子

著書の概要

本書では、新株予約権を用いた資金調達とストック・オプションの検討を通じて、負債と資本の区分について議論し、日米の会計基準と国際基準である IFRS を考察対象とする。日本の新株予約権の発行事例をみると、転換社債型新株予約権付社債が取得条項付きで発行されることが多く、米国とは異なる特徴のストック・オプションが普及している。また、米国基準と IFRS については、負債と資本の区分をめぐる議論、及びストック・オプションの費用認識の根拠やその税効果会計に関して、歴史的な経緯がある。

本書で提起した問題点は、主に3点である。第一に、新株予約権の性質、特に権利行使前に払込資本と同じものであるのかという点である。第二に、複合金融商品が区分処理されるか否か、そして、そのうちの社債部分の拠出による代用払込や転換、および取得条項に基づく取得の際に株式が発行される場合、負債部分をどのように評価し、払込資本の増加金額を測定するか、という点である。そこでは、負債の評価問題と払込資本の増加金額の測定問題とが接している。第三に、新株予約権について、現金払込を伴う資金調達手段としての議論と、ストック・オプションのような決済手段としての議論が、等しい形で行われるか否かである。

金融不安定性のマクロ動学

著 作 者

滋賀大学経済学部教授

滋賀大学大学院経済学研究科副研究科長

二 宮 健 史 郎

著 書 の 概 要

サブプライム問題に端を発したアメリカ発の世界的な金融危機により、ポスト・ケインズ派の経済学者、ハイマン・ミンスキー (Minsky, P. Hyman) の金融不安定性仮説がにわかに注目を浴びている。

本書は、金融不安定性仮説とそれを数理モデルに展開した諸研究をもとに、金融不安定性のマクロ動学モデルを構築し、金融の不安定性、循環、及び金融の不安定性を抑止するための政策、制度的枠組みなど検討している。

現代経済学の主流である新古典派経済学や新しい古典派は、経済の実物面と金融面の相互依存関係を見逃し、或いは非常に軽視している。また、ケインズの考え方を単純化した IS・LM モデルに導入されている金融部門は、経済を安定化させるように作用しており、金融の不安定性を検討する枠組みとして十分なものであるとは言い難い。

本書の主たる特徴は、IS・LM モデルでは捨象されている債券市場を正面から扱うことによりミンスキーが重視した貸し手と借り手のリスクを定式化し、負債の動態などをマクロ動学モデルに導入することにより、金融の不安定性、循環を検討しているところにある。

社債のリストラクチャリング
—財務危機における社債権者の意思決定に係る法的規律

著 作 者

神戸大学大学院法学研究科特命准教授

行 岡 睦 彦

著書の概要

事業にリスクはつきものであり、会社はときに危機に陥る。価値のある事業を再生するためには、財務的なリストラクチャリングを実現することが有益である。しかしながら、社債を発行している会社が財務危機に陥った場合には、多数の投資家が債権者となることに起因して種々の困難が生ずる。本書は、社債のリストラクチャリングにおける社債権者の意思決定に焦点を当て、異なる制度モデルを採用する諸外国の法制度を横断的に検討することを通じて、そこにいかなる問題が伏在するのかを分析するとともに、これを克服するための望ましい法的規律のあり方を論ずるものである。